



第3号

【藤 蔭】

大正7年設立の校友会の名前です。藤原鎌足が蘇我氏打倒を藤花の木蔭で同志と謀った伝承から、悪を戒め善を責めて互いに練磨修養するという意味です。



「新年度に思うこと」

同窓会会長 滝井 眞智子

緑あざやかな季節となりました。西高創立百周年後に同窓会の運営を任されて早々、コロナウイルスと言う新しいウイルス菌が世界中に広まって5年が過ぎました。今はそのウイルス菌もインフルエンザと同じ5類となり、新しい薬の開発を待ちながら、以前の生活に戻りつつあります。私達も同窓会の運営を以前の形に戻しつつ、様子を見ながら活動を進めています。

毎年同窓生も一六〇人程増えております。同窓会活動の主な仕事は、同窓生名簿の管理ですので、皆様もご自分の住所変更などがある時、また知り合いの方の情報についても、連絡を下さると大変ありがたいと思います。その他、在校生への協力応援も重要と考えていますので、今後も積極的に行っていくつもりでおります。

最後に、百周年に併せて旧校舍跡地に建てた記念碑の管理をしています。以上の事を中心に運営を進めていく予定でおりますので、これからも各期委員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

藤枝西高等学校が男女共学となり、20年以上が経過しましたので、そろそろ常任委員にも男性卒業生が加わっていたらと、大変ありがたいと思います。各期委員の皆様にも、常任委員を受けていただけそうな方を教えてくださるとありがたいです。

同窓会入会式

2月29日(木)「令和5年度同窓会入会式」を西高体育館アリーナにて執り行ないました。一五五名の入会です。

同窓会に入会された卒業生の皆さんには、学校からの要望により印鑑を卒業記念品として贈呈しました。



同窓会の皆さまへ

校長 竹村 祐

同窓会の皆様方におかれましては、日頃より、本校の教育活動に対して物心両面において、御協力いただき、深く感謝いたします。校長の竹村祐(たけむらゆたか)です。

現在本校は、各学年四クラス、全校生徒四八三人が在籍しており、生徒たちは、学部・部活動・生徒会活動など、日々懸命に過ごしております。『今しかない高校生活を大切に、精一杯過ごして欲しい。』と応援しながら、誠実に取り組む二人一人の姿に愛おしく、誇らしく、羨ましくも感じています。本年度、静岡県立大学に合格し、新入生代表として入学式で宣誓した学生は、この春の本校卒業生でした。高校時代、学部と部活動の両立を果たし、その取り組み姿から多くの後輩が影響を受け憧れの先輩の一人であったことは間違いありません。

先日、蓮華寺池のほとりに西高が建っていた当時の教頭先生から、旧校舍閉校式と新校舎開校時の話を伺いました。当時の資料を読み返してみました。そこには先輩諸氏から現役生に対して「いろいろなものに興味を持ってほしい。」「自信を持ってほしい。」「というエールの声が多く寄せられていました。先輩方の思いを受けながら、期待に応え、邁進する大切さを改めて感じた次第です。

さて、今年の入学式では「タフな精神を育てよう。」「無駄だと思えることにも全力で取り組もう。』といった話をしました。コロナの影響で、体験活動など十分に経験する機会の少なかった生徒たちが、校訓『自律・敬愛』のもと、様々なことに積極的にチャレンジし、健やかに、着実に成長していくことを期待しています。無邪気に、そして懸命に今を生きる西高生二人一人が全力で高校時代を駆け抜けることが出来るよう、『不易流行』を意識しながら、本年度も教育活動の充実に取り組んでまいります。引き続き温かい目でお力添えください。

本年度もよろしくお願い致します。

◆住所等変更になった場合◆

「藤枝西高HPの同窓会ページ」により同窓会事務局まで連絡をお願いします。



藤枝西高
ホームページは
こちら

〒426-0021

藤枝市城南2丁目4-16
静岡県立藤枝西高等学校
同窓会事務局(藤枝西高校内)
電話 (054) 641-0207
ファックス (054) 641-0840

※同窓会会報「藤蔭」についてご意見・感想・その他取り上げて欲しい事などありましたら同窓会事務局までお寄せ下さい。



「あの頃」

第41回 卒

堀本雅子

藤の花の香りに誘われて、アルバムを開いてみました。蓮華寺池に姿を映す母校は美しく、^き概いを持って通った懐かしい日々が次々と浮かびます。

私が通ったのは14代・桜井豊治校長から15代・中島常男校長の時、昭和三十年代なかばになります。時代はすでに自由で平和な世の中になっていました。新築の校舎と共に、女学校時代の木造校舎も残り、活発になってきた部活動に使用していたと記憶しております。

しかし、女学校としての歴史を持つ女子教育の厳しさは、現代の高校生には想像できないかもしれません。髪型・スカートや上着の丈・スカートの結び方や靴下の色まで、校則の厳しさに反感を持つ生徒も多かった。いつの世でも、若い者は束縛を嫌うものです。

それでも、立振舞いや礼儀作法など、社会に出てからはずい分と役に立ち、当時の指導を有難く感じました。

藤蔭寮での宿泊訓練は、炊事・洗濯・掃除に至るまで、日常生活に必要なことを丁寧に指導していただきました。また、私達が用意した夕食に当直の先生をお招きして、ご一緒したことも懐かしい思い出です。

水泳訓練・富士登山・キャンプと、友と過ごした行事が次々と浮かんできますが、「富士山は、登るより遠くから眺めるものだ」という声も…

平成十二年、校舎の新築移転と共に男女共学校となり、母校は新しい藤枝西高等学校になりました。より良い教育の場とする為に、先生方も努力や工夫を重ねておられることと存じます。

楽しい学びの場とするだけでなく、未来にたくましく生きていく力も身に付けて、西高の歴史に更なる厚みを増していただけますよう、期待をしてみません。

藤蔭寮物語 ～全国から注目された藤蔭寮でのしつけ教育～

昭和9(1934)年、藤枝高女時代に藤蔭寮での「しつけ教育」が始まりました。5人1組になって泊り込みのしつけ教育の指導が行われたのです。ご飯の炊き方から掃除の仕方、おじぎの仕方、接客応対まで事細かく指導がなされました。こうした寮生活での「しつけ教育」は、当時としても珍しく全国から見学者がありました。2泊3日の訓練と5日もしくは6日の訓練が行われました。

この寮生活は戦争中一度途絶えましたが、戦後復活し、藤枝高女から藤枝西高校へと伝統が受け継がれましたが、昭和39年には、一部が職員住宅となり、昭和55年に解体されました。



▲創立八十周年記念誌「藤蔭」より



▼創立九十周年記念誌「藤蔭」より

